

会員の業種を広げ 「実のある工業会」 にしたい

受託事業に加え、メーカー指向の商品事業を柱に
——チャンス逃がさず、勇気を持って決断する

兵庫県シートメタル工業会 会長 濱部 晃 氏
(有限会社 浜部製作所・
株式会社 ハマベ 代表取締役社長)

兵庫県シートメタル工業会の2020年度通常総会で、9代目会長に選任された濱部晃氏は、コロナ禍でリアルな工業会行事ができない環境下でも新規会員の参加を得るなど工業会活動を率先垂範してきた。

同工業会は兵庫県内の板金加工事業者の発展、会員企業の繁栄と業界発展のため広く親睦をはかり、教育・技能・経営などの業界に関わる諸問題の研さんを目的に1986年11月に設立され、現在の会員企業数は50社を超える。親睦行

事などを通じての情報交換、技能検定試験の実施、各種研修会での技能向上、人材育成を積極的に推進。また、若手経営者向け研修会なども積極的に行い、「青年部」では他地域の工業会青年部との交流も深めている。

業界を取り巻く環境は激しく変化しており、業界構造も大きく変わろうとしている。そこで濱部会長にこれからの業界展望を踏まえた工業会活動や、企業経営者としての心構え、これからの経営の在り方について話をうかがった。

■業況はゆるやかな回復傾向

——板金業界の現状をどのように見ておられますか。

濱部晃会長（以下、姓のみ） 兵庫県内には建設機械、鉄道車両、医療機器、現金処理機、計量機器、電気・電子機器、産業機械など重厚長大から小物精密部品まで幅広い需要業界があります。材質・板厚も幅広く、精密板金、製缶板金を手がける会員企業が多い。半導体関連や、好調だった建設機械関連も先行きが見通せないで、一部に停滞感がありますが、会員企業は比較的順調に事業活動をされて

いると思います。半導体関連も夏以降には改善予兆が見え、2024年度はゆるやかに推移していくと考えています。

■自社の強みを生かし魅力ある企業に育てる

——事業承継、人材確保、人材育成、DX・GXなど、さまざまな課題への対応が求められています。

濱部 後継者難で事業承継をどうするか腐心されている企業は私の周りにもあり、最近M&Aもさかんに行われるようになっていきます。時間との勝負なのでドライに判断してい

くしかないと思います。目まぐるしく変動する社会と経済状況に対応するためには、常に現場を重視し、時代のニーズに対応できる体制や環境への整備が重要だと思います。そのためにも、自社の強みと弱みを把握することが必要です。

当社の場合、技術力と高品質に加えて、社員一人ひとりがお客さまの立場に立ったサービスなどを充実させるよう、人材育成にも取り組んできました。結果として、私の子どもたちも進んで事業を手伝ってくれるようになりました。会社に魅力がなければその選択はないわけで、魅力ある企業に育ててこそが重要だと思います。

■変化する業界構造に対応する

——発注元を頂点とするピラミッド型のサプライチェーンが、発注元とイーブンなパートナー関係の水平型に変わり始め、サプライヤーの企業規模が大きくなり、加工能力も金属加工全般に拡大するなど、業界構造も大きく変わり始めています。

濱部 板金、プレス、機械、電気加工など金属加工全般に対応できる企業に仕事が集中する傾向が顕著になってきました。これまでのように「抜き、曲げ、溶接だけが得意」といったことでなく、一括で賄える企業が伸びています。加工範囲が広がると企業規模も大きくなり、従業員も増やす必要が出てきます。

ただ、これは受託加工型のビジネスモデルに見られるケースで、当社のように自社製品の製造販売も行う場合、保有設備や技術も限定的で従業員もほどほどで対応できると思います。必ずしも企業規模を大きくすることが目標にはなりません。会員企業の中でも売上比10~20%を自社製品で賄いたいと考える企業が増えています。売上の平準化、景気対



(南)浜部製作所の本社工場

策という考えもあると思いますが、こうしたスタイルも新たな業界構造を表す考え方のひとつだと思います。

■リチウムイオン電池用安全性試験機の開発

——御社は受託加工型のビジネスモデルからの脱却という考えから、リチウムイオン電池用安全性試験機の開発・製造・販売を始められました。その経過について教えてください。

会社情報

会社名	有限会社 浜部製作所 ／株式会社 ハマベ
代表取締役社長	濱部 晃
所在地	兵庫県神戸市西区 高塚台3-1-50
電話	078-991-1794
設立	1989年
従業員数	25名（株ハマベも含む）
主要事業	自動化・省力化機器・恒温槽の設計製作、各種制御盤の製作、精密板金加工
URL	https://www.hamabe-ss.jp/



CORPORATE WEBSITE

主要設備

- ファイバーレーザー複合マシン：EML-2512AJ+ASR-2512N
- レーザマシン：FO-2412NT
- ペンディングマシン：HDS-1303NT、HD-5020NT、RG-35S
- シャーリング：DCT-2565
- ハンディファイバーレーザー溶接機：FLW-1500MT
- 各種溶接機（TIG、半自動スポット溶接など）
- バリ取り機：AuDeBu
- 材料棚：AMASPACE-124×2台（22棚）
- 3次元ソリッド板金CAD：SheetWorks
- 2次元CAD/CAM：AP100×2台
- ブランク加工用CAM：VPSS 3i BLANK
- 曲げ加工データ作成全自動CAM：Dr.ABE_Bend
- 生産管理システム：WILL
- 進捗管理システム：iP進捗



「第29回優秀板金製品技能フェア」で、経済産業大臣賞を受賞した「環境試験機（恒温槽）1/4サイズ」



①ファイバーレーザー複合マシンEML-2512AJ+ASR-2512N / ②ベンディングマシンHDS-1303NT (奥)、HD-5020NT (手前) が並ぶ曲げ工程 / ③溶接エリアでは架台の溶接作業を行っていた

濱部 私は徳島県海部郡海陽町の漁師の四男として生まれ、半世紀ほど前に神戸市の鉄工所で溶接加工、板金加工を担当。6年ほどセットプレス、コーナーシャー、ベンディングマシンで加工する仕事に携わりました。1989年に29歳で溶接作業を主体とする(有)浜部製作所を設立、溶接技術には自信があり、難易度の高い仕事が集まって事業は順調に伸びました。以来、抜き～曲げ～溶接までを手がけ、自動化・省力化機器の設計・製作、各種制御盤の製作を行う精密板金加工企業になりました。

2010年に環境試験器などを取り扱う商社に勤める知り合いから、「リチウムイオン電池が電子機器から自動車まで幅広い用途で使われている。用途にあった高精度・高品質な製品が求められるようになり、要求に応える環境試験器に対するニーズが急増している。温度を長時間一定に保つよう制御したり、湿度を一定に保ちながら一定の間隔で温度を繰り返し変化させるなど、環境試験に必要な細かな制御を行うことができる環境試験器（恒温槽）を開発すれば売れる」という話を聞きました。未知の分野で迷いましたが開発を行うと決断。当時、ものづくり大学大学院で電子制御工学を学び、卒業を控えていた長男・雅人に相談すると、「おもしろそうだ」「自分も手伝うからやってみよう」と快諾、開発が始まりました。

開発したのは二層式の恒温槽です。それまで一層式しかなかった恒温槽が二層式になることで、床面積あたりの検査効率が改善され、売れました。板金でどんな形状の槽でも製作することができる、客先仕様で対応するカスタム恒温槽が好評で、試験を行う企業から一気に大量の注文を受けたり、大手リチウムイオン電池メーカーから継続的にまとまった台数を受注したりするようになりました。自動車のEV化にともないリチウムイオン電池の需要が大幅に増え、現状で

も2年先までの見込みが立っています。まれに検査中の電池が爆発することもあるので、防爆・防煙カバー付きで納品するようになりましたが、ここでも板金加工が役立ちます。

現在では長男が専務となり、環境試験器の販売部門として(株)ハマベを設立。ハマベからの注文は当社の売上の40%を占め、受注の平準化、売上増に大きく貢献しています。製造部門では長女・さやかが取締役として、製造部と一体となってしっかりと見てくれています。受託加工ではコンベヤーなどの搬送装置などに使われる脚ユニットや大手電器メーカー向けの制御盤、配電盤の筐体などを製作しています。受託加工事業だけではなくメーカーとしての活動が事業を発展させています。子どもたちや従業員の協力があってこそ、ですがチャンスを逃がさず、勇気を持って決断することが大切だと思います。

■板金に関連する幅広い業界から会員を募ることも検討

——チャンスをモノにするにも経営者の決断力が重要ですね。

濱部 当社はシートメタル工業会に加入する以前から「神戸市機械金属工業会」に加盟しています。ここは機械金属加工に関するいろいろな業種の企業が加盟しており、交流会でも異業種の方々の話が聞けるので大変参考になり、刺激を受けます。今どんな業種の仕事が忙しくなっているのか、生の声が聴ける。時にはそれぞれに得意分野を生かした協業の話も出てきます。

シートメタル工業会の場合は、同業者同士の集まりのため本音と建前があって、なかなかお互いの本音が見えない。得意先がバッテリーする場合もあるので、本音の話ができないこともあります。そういった意味合いから、工業会を活性化するために会員を増やすことを考え、製缶加工、鋼材



①ハンディファイバーレーザー溶接機FLW-1500MTによる溶接作業／②試験機の筐体／③試験機のための防煙カバーボックス

加工、塗装や表面処理など板金製品に必要な機械や技術、材料に関わる企業にも会員の枠を広げるといことも検討すべきだと思います。今のままでは、本当に親睦だけになってしまう。会員企業のビジネスにつながる事業を考えても良いのではないかと考えています。

——ご指摘の点はよく理解できますが、事業承継者が主体の青年部では、後継者としての悩み相談を含め同じ業界だからこそわかり合えるものがあり、有意義な活動をされているという話も聞きます。

濱部 たしかにそうしたメリットがあることも事実です。長男の専務も青年部に入っていますが、若手経営者同士、フランクに話し合っているようです。ただ、業種を広げてほかの業界も見ていく必要もあると思います。

■故郷でオートキャンプ場をオープン

——濱部社長は故郷の海陽町穴喰ししくいに2023年4月にオープンしたオートキャンプ場「4491Base」の管理人として、毎週末、

通っていらっしゃるとうかがいました。

濱部 オートキャンプ場「4491Base」は、徳島県最南端の旧・穴喰漁港につくられた水床湾が目前に広がる抜群のロケーションの土地をお借りして整備、昨年4月にオープンしました。キャンプ場で非日常を楽しみ、釣りやマリンスポーツを楽しんだり、海を眺めながらゆっくり周辺を散策することもできます。キャンプ区画は4サイトで定員最大10名、オートキャンプ区画は3サイトで各定員5名となっています。バーベキューサイト、トイレ、シャワー室、ランドリーも完備、これらを囲う小屋は当社が板金で製作しました。

また、当社で設計・製作したオリジナルの焚き火台や鉄板、ペグも販売しています。散策路は私が小型ショベルを操作して造成、近くには兄弟が営む海鮮食堂もあり、故郷再生の一助になればと思っています。オープン以来、徳島県内からの利用が増え、今では半数以上がリピーターです。会社は頼もしい子どもたちで十分まわっているので、私はこのオートキャンプ場の管理人の仕事が楽しみになっています。



①海陽町穴喰に2023年4月にオープンしたオートキャンプ場「4491Base」／②「4491Base」のオリジナル製品のスマートフォンスタンド／③「4491Base」に設置する洗濯機格納ルーム